

東京隅田川ライオンズクラブ 会長賞
ADILOVA AIZADA (アディロヴァ・アイザダ) カザフスタン
新宿日本語学校

私のこれまでとこれから

私はカザフスタンの田舎に住んでいたのであまり外国人と関わることがなかった。だから外国人を宇宙人のようだと思っていた。

小学生の頃英語の勉強をしていたが、あまりにも難しくてやめてしまった。なので両親から「どうして止めたんだ」と聞かれ、思わず「じゃあ日本語を勉強する!」と言ってしまった。本当はあの時日本に興味なんて持っていなかったのに。。。

高校生になってから都会へ引っ越し、日本語を学び始めた。その頃カザフスタンへ来ていた日本人と話すことがあり、だんだん日本語がうまくなり、また話すことが面白くなった。ある日本人にツイッターを勧められて、私もやってみた。

最初は日本人だけと交流していたが、次第にアメリカやヨーロッパの人とも関わるようになった。いろいろな国の人と話してみても国によって文化や習慣が違うことがわかり、日本語も英語も学びたいと思った。だからボランティアや国際交流をして行く中で外国人と話すことが楽しかった。

ツイッターではいろんな国の人と仲良くなって、向こうから「こっち来たら一緒に遊ぼう」と何回も言われた。だから日本に来て知り合いにそう言ったらみんな「あっそうね、いつか遊ぼうね、東京の生活を楽しんでね」と言われた。

来る前にすごくワクワクしながら頭でツイッターで知り合った友達と日本でのアドベンチャーの毎日思い描いていた。しかし、友達が言ったことから、社交辞令だったということがわかって、ショックだった。

女子寮では友達を作りたいかったが、みんないつも忙しそうなので諦めてしまった。ある日寮の周辺で道に迷ってしまって、偶然会った女の子に道を聞いた。その日の夕方、部屋のドアを誰かがノックしたので、開けたらその子が立っていた。

彼女の名前はあきちゃんという。あきちゃんは私が外国人で、寮に入ったばかりということを知って、いろいろ教えようと私に会いに来てくれたのだった。

その時から一人での食事の時間が少なくなってきて、あきちゃんといつも話すようになった。そして、寮にいる他の友達にも紹介してくれた。一緒に料理を作ったり、遊びに行ったりして、やっといい友達ができたと考えた。しかしそんな楽しい日々は長くは続かなかった。だんだん友達は私を避けるようになった。「なんでみんな私を避けるの?私になにか悪いことした」と心の中で思った。その原因がわからないまま1か月くらい悩んでいた。ちょうどその頃、寮で一人の留学生と知り合った。彼女も日本に来たばかりで、まだ日本の生活に慣れておらず、家族のことや、お互いに悩みついて話し、よき相談相手になった。そしてある時ふと私は気がついた。「あ~そういうことだったのか。だから彼女たちは私を避けるようになったんだ。」ようやく私は気が付いた。思い出してみると日本人の友達とは、お互いの国の習慣や文化について話し、個人的な話をしたことが一度もしたことがなかった。だからそれから私は自分から、家族の話や学校のことを彼女たちにいろいろ話すようにした。それがきっかけでお互いの距離が近くなりまた話す機会も増えた。

私も彼女達のおかげで、自分の気持ちや言いたいことを伝えられるようになった。あきちゃんがいつもニコニコしていて「友達をいっぱいできたの?」、「毎回日本語のレベルが上がってるね」と言ってくれて、心の中はあふれてくる感謝が足りないくらいだった。

新学期になって、寮で行ったパーティーや新入生歓迎会に積極的に参加している。これからは日本のことを理解できず、困っている外国人がいたら、その人たちの力になりたい。これまでの経験を活かしていきたいと思っている。